

令和2年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

60

福岡県立糸島農業高等学校長 印

(全日制)

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)		
学校運営方針		評価 (3月)		
昨年度の成果と課題		年度重点目標		
		具体的目標		
【成果】 ○授業規律に対する全職員の共通理解を図る取組。 ○中学校・塾教師向け学校説明会を実施した新たな広報活動。 ○自主的な生徒会活動による学校行事の活性化。 ○進学・就職への進路実現に向けた効果的な取組。	鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばすことにより、「志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒」、「自ら考え、多様な価値観の人々と協働し、課題を解決できる生徒」、「キャリア教育を充実し、企業が求める実践的な人材」の育成を目指す。生徒一人ひとりを大切にするとともに、学校集団としての連携感を高めコミュニケーション能力を高めることで社会性を育み、心豊かな人間形成を目指した組織的・計画的な教育活動を展開する。	教育活動全体をとおして、鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす教育を行う。		
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、確かな学力と実践力の向上を目指す。	主体的・対話的で深い学びを実践した授業改善に取り組み、生徒の基礎学力向上を図る。また、地元企業と連携した農産物、加工品の研究、製造を推進し、学校ブランド化を推進する。		
	入学から卒業まで一貫したキャリア教育の充実を図り、希望する進路を100%実現する。	3年間を見通したキャリア教育プランの充実を図り、生徒の希望する進路(進学・就職)を実現する出口対策を強化し、100%の進路実現を目指す。また、国公立大学への進学者を輩出するため、進学指導を充実させる。		
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図るとともに、自律心と思いやりのある心豊かな人間形成を目指す。	学習環境の整備及び教育相談の充実を図り、いじめの防止と撲滅に取り組む。また、全教科・全領域において人権教育を推進し、道徳的実践力を高め、自尊感情や自立心思いやりのある心の育成に努める。		
【課題】 ○定員割れを起こさない、魅力ある学校づくりの取組。 ○教師・生徒の危機管理に対する意識の向上への取組。 ○国公立大学への進学実現のための取組を計画的に実践する。 ○効果的な広報活動による地域との連携・協力体制の推進。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
教 務	・新学習指導要領の実施に向けて、3観点の観点別評価方法を検討し実施できるようにする。 ・学校説明会や体験入学を、中学生や保護者にとってより充実した内容にする。	・評価方法を改善し、多面的評価を進める。	B	新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、主体的・対話的で深い学びを行うための方策を考える。 令和4年度からの観点別評価(3観点)の実施に向けて、教務内規や成績処理シートを検討する。
		・他校の観点別評価方法についても情報を収集する。	A	
		・関連資料を学科の職員にも検討してもらい、改善する。	B	
		・各行事への参加人数をR1年度より増加させる。	B	
生徒指導	・制服、部活動規定の見直しを図る。 ・生徒会関係行事の見直しを図る。	・頭髪・服装検査状況の集約やカードによる指導の状況を見直す。	B	1年生より新制服の導入、評価は良い状況である。女子スラックスの推奨など細かな点を検討する。イエローカードの廃止も含めて検討する。部活動の外部指導者の活躍もあり、今後に期待できる。 学校行事(生徒会活動)にコロナ感染症防止対策が影響すると考えられ、早くからの準備が必要である。
		・安全な部活動の指導体制づくりや外部指導者の導入。	B	
		・体育祭と糸農祭の精査(プログラムや設定時期等)	B	
		・関連部署との連携(農業クラブ・地域・他校等)	B	
進路指導	・キャリア教育を充実させ、希望進路の100%実現を目指す。 ・進路指導の効率化を図る。	・1学年への就職を意識した進路指導を充実させる。	B	コロナ禍の中で進路行事をどのように実施していくのか、学年と連携をとりながら進めていく。 大学進学希望者に対しては、定期的に生徒の状況を把握し意識を高めさせる。
		・3学年の面接指導及び進学者の指導を充実させる。	B	
		・インターンシップやようこそ先輩等の行事段取りの効率化を図る。	B	
		・就職、進学の手続きの計画的な実施と期日の厳守を図る。	A	
保 健	・美化委員会活動を活性化する。 ・心身両面からの支援と情報提供を行う。	・ゴミ分別とゴミ減量化を意識する呼びかけを中心に活動を行う。	A	これまで積み重ねてきた活動を継続しながら、感染症対策を踏まえて校内美化活動の活性化を図る。 新型コロナ感染症対策は長期化することが予想されるため、最新の情報を取り入れながら、地域と学校の感染状況に応じた柔軟な対応を行う。
		・教職員、生徒が一体となって毎日の清掃活動に意欲的に取り組むことで、校内の美化を推進する。	B	
		・教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境作りに努める。	A	
		・生徒保健委員会を活性化し、生徒の状況に合わせた情報を発信する。	B	
企画庶務	・学校行事等へ積極的に参加し、円滑な運営に協力する。 ・PTA活動の支援を行う。	・各部との連携を適宜行う。	A	コロナ感染症拡大防止の観点から各行事を見直し、安全・安心なものにしていく。コロナ感染症に対するワクチン接種会場になる可能性もあるので、そのことも考慮しておく。 PTA活動(文化祭でのカレー、マラソン大会での豚汁)の参加・不参加の意思決定はPTAに依存するのではなく、場合によって学校から中止をお願いする。
		・危機管理マニュアルの見直しを行う。	A	
		・本部役員活動や各委員会活動を支援する。	A	
		・総会への参加増員を目指す。	C	
研 修	・現状において最も必要な職員研修の充実を図る。 ・実践力を伴った教科指導力の向上を目指す。	・各課への要望アンケートや職員アンケートの結果を踏まえ、先生方のニーズに合った研修を実施する。	B	必要な研修を適時に実施し、研修の効率化を図る。 新学習指導要領のねらいに応じた、実践力を伴う教科指導力の育成を目指す。
		・研修の実施時期や時間帯を考慮し、90%以上の出席率を目指す。	B	
		・相互授業参観や公開授業を設定し、自己の授業の課題やより良い指導法を見出す機会とする。	A	
		・校外研修等への参加を促進し、外部の先進的な取り組みに触れる機会を提供する。	B	
広 報	・広報活動を充実させる。 ・学校ホームページを刷新する。	・学校案内等の資料を見直し、充実した資料の作成を行う。	A	新学科を周知するため、広報資料を検討し作成していく。 中学生の情報収集について知り、情報発信の手段を検討する。
		・教務課、農務と連携し、学校紹介イベントを実施する。	B	
		・学校ホームページを充実させ、閲覧回数を増やす。	B	
		・ホームページ更新について周知させ、月に4回は更新する。	B	

B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
農務	・県大会・九州大会事務局の円滑な運営と成功	・校内クラブ員の意識向上のための広報板の設置等各種取組 ・詳細な運営要項の早期提示と各科連携	B B	B	新学習指導要領・学科再編を見据えた準備が不十分であるので、早急に準備室を立ち上げ、対応していく必要がある。 農業教育におけるICT化の取組及び地域と連携した活動を強化し、外部へ積極的に広報することが課題である。
	・農務部組織の見直しと専門力の向上	・農務部広報の在り方と各科連携 ・各科特色ある重点事業の設定(商品開発・地域連携等)	B B	B	
人権・同和教育	・効果的な人権・同和教育教材の工夫・開発	・研修会や学習会で学んだ内容の教材化を試みる。 ・各学年の実態に応じた効果的な題材を取り扱う。	B A	B	人権学習に関する最新情報の収集に努め、本校の実態にあった教材を工夫・開発することを目指す。 家庭、地域(中学校)との連携を深め、各生徒の背景に配慮しながら、人権意識に基づく支援を行う。
	・専門機関と連携しての組織的な修学支援	・生徒の状況を把握し、全職員での情報共有を促す。 ・SC等の助言に基づき、生徒との日々の関り方に留意する。	A A	A	
第1学年	・コミュニケーション能力を高める。	・学年集会を月1回程度実施し、静かに整列・待機し、話す人を見て人の話が聞けるように指導する。 ・学年で協働する取り組みを実施し、クラスを超えてコミュニケーションできる機会をつくる。	A B	B	自主的な挨拶ができるようにする。授業や集会での人の話を聞く姿勢や態度を改善する。 自学ノートを継続して実施し、学力を向上させる。また、進路意識を高めることにより、学習の動機づけにする。
	・基本的生活習慣の徹底を図るとともに学習環境を整える。	・始業前10分間学習を実施し、遅刻の減少と基礎学力の向上を図る。 ・荷物や机上の整理指導、昼休みの巡回を実施し、ゴミのない学習にふさわしい教室環境を維持する。	B B	B	
第2学年	・基本的生活習慣を確立する。	・朝早い登校を習慣づけ、1日の良いリズムを作り、遅刻・早退・欠席を減らす。 ・挨拶、身だしなみ、授業に取り組む姿勢について、繰り返し指導を行うことで徹底させる。	A B	B	挨拶や授業に取り組む姿勢、掃除への取り組みなど日頃の学校生活全般に渡って意識を高くして取り組ませる。 希望進路実現のため、学力向上や面接指導の充実を図る。
	・基礎学力と進路意識の向上を図る。	・0トレや朝トレ、宿題を通して基礎学力の向上を図る。 ・総合的な探求の時間やHR、個人面談を通して進路について考える機会を設け、進路意識を高める。	B B	B	
第3学年	・授業規律の確立と基礎学力の向上を図る	・教室の清掃、机上及び周辺を整理整頓させ、落ち着いた態度で授業に臨むよう徹底する。 ・朝トレや課題で基礎学力の定着を図ると同時に、考査や基礎力診断テストに明確な目標を持たせ、努力や達成感を伸ばし、基礎学力の向上を図る。	B B	B	基本的生活習慣をあらためて徹底させる。 変容する時代の変化に柔軟に対応しながら、卒業後の姿を見据えて、継続的な進路指導を計画・実行する。
	・進路実現(=自己実現)に向け、資質能力の向上と一般常識・礼儀やマナーを身につける	・総学・HR、朝トレ、課題による就職・進学対策や面接指導を徹底し、進路実現に必要な力をつけさせる。 ・進路指導課と連携し、外部刺激による意識向上を狙い、講師を招聘し、進路講話を実施する。	B B	B	
事務室	・適切な会計処理と保護者負担の軽減	・会計処理について法令遵守を徹底するとともに、節減を実施し、限られた予算の効率的な執行を行う。 ・保護者負担軽減の観点から、就学支援金及び奨学給付金事務を確実に実施する。	A A	A	適切な会計処理とコロナ対策の実施 農場管理の充実及び発展
	・農場管理の充実及び発展	・平成29年度からの新たな職種である技師(農業技術)の活用及び教員との連携により、農場管理の充実を図る。 ・学校での生産物販売において、厳密な法令遵守の手続きを行う。	A A	A	